

【経営学部】令和7年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告（*は必須項目）

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：

- ・イノベーションマネジメント・ケース分析(春学期)
- ・具承桓先生
- ・6月9日3限 5301 教室
- ・参加人数 5 名

②ワークショップ：

- ・参加人数 5 名
- ・ワークショップでの意見交換内容

「ケース分析」の講義内容の設計から実施および評価について、新任の先生からの質問をうけて意見交換をおこなった。同時に、ケース分析以外の講義およびゼミ（演習）についても参加教員の全員からそれぞれの経験にもとづいた工夫などの意見交換をおこなった。

①公開授業：

- ・戦略マネジメント・ケース分析(秋学期)
- ・久保亮一先生
- ・12月19日5限 5302 教室
- ・参加人数 2 名

②ワークショップ：

- ・参加人数 2 名
- ・ワークショップでの意見交換内容

対象となった「戦略マネジメント・ケース分析」では、事前に企業事例の PDF を配布し、学生に戦略分析の課題を提出させている。しかし、近年は AI を使って課題を作成する学生が増えており、授業で最も重要であるはずの“自ら分析する”という学習行為が成立しにくくなっている。この問題について意見交換を行った。

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

経営学部では毎年度、教育 FD 委員を設置し、教育 FD 活動を実施している。そして教育の基盤は研究であることを踏まえ、研究 FD 委員も併せて設置し、教授会が開催される第3水曜日の昼休み（12:30～13:00）を利用して、学部として例年研究 FD 活動を実施している（「パワーランチ」）。ちなみに、パワーランチのうち春学期と秋学期の各1回については、教育 FD 活動に充てている。令和7年度も、そのような形で実施した。

なお上記以外にも、全学 FD/SD 研修会については例年教授会で周知を図り、参加を促すようにしている。加えて、公益社団法人私立大学情報教育協会が作成・配信している、教育方法、教材開発、大学改革の戦略、教育支援などに関するオンデマンド動画コンテンツについても教授会で周知している。令和7年度は、各自の目的にあった講義を視聴してもらい、感想を提出してもらった。

① 教育 FD 活動

(a) テーマ：「入試広報・学生募集の視点から大学・学部教育を考える」（春学期）（大学院教育 FD との共催）

講師：松本光真様(入学センター部長)

日時：7月16日（水）12：30～13：10、30分レクチャー+10分質疑応答（zoom）

参加人数：18名

(b) テーマ「イノベーションセンターにおけるアイデア創出の場づくりと起業・事業化の応援」
（秋学期）

講師：棚原由香利様（本学 社会連携推進機構イノベーションセンター）

日時：12月17日（水）12：30～13：10、30分レクチャー+10分質疑応答（zoom）

参加人数：20名

② 研究FD活動（「パワーランチ」）

第60回（2025年4月16日）

講師：森口文博先生

テーマ：ピボットと出口戦略

参加人数：13名

第61回（2025年5月21日）

講師：上元亘先生

テーマ：「界限」消費とコミュニティ感覚

参加人数：12名

第62回（2025年6月18日）

講師：上野継義先生

テーマ：「“安全第一”の起源物語をめぐるトランスナショナル・ヒストリー
：記憶は忘却の果実」

参加人数：21名

第63回 パワーランチ（2025年9月17日）

講師：星野雄介先生

テーマ：「事例研究のための生成AI活用の試み」

参加人数：13名

第64回 パワーランチ（2025年10月15日）

講師：高尾義明先生

テーマ：「AIの導入がジョブ・クラフティングにもたらす影響：文献レビューをもとに」

参加人数：20名

第65回 パワーランチ（2025年12月3日）

講師：李樹萱先生

テーマ：「Coordination for Competition: Antecedents and Competitive Impacts
of Team Extemporaneous Coordination in eSports Tournaments」

参加人数：19名

第66回 パワーランチ（2026年02月18日）

講師：北原敬之先生

タイトル：異文化マネジメントにおける思考と行動
～企業と大学等での経験から得られた知見

参加人数：16名

第67回 パワーランチ（2026年03月17日）

講師：上野継義先生

タイトル：ヒューマン・エンジニアの夢と戦い―新しい人事管理生成史の再構成を目指して―
参加人数：13名

③ 全学 FD/SD 研修会への参加

(既述の通り)

④ 公益社団法人私立大学情報教育協会オンデマンド動画コンテンツの視聴

(既述の通り)

2. 総括（今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等）

今年度も多くの教員・職員の方の協力のもと、充実した FD 活動を展開することができた。公開授業、全学 FD/SD 研修会および公益社団法人私立大学情報教育協会のオンデマンド動画の視聴では、他の教員の講義の進め方・工夫を知ることによって、自身の講義の在り方を見つめ直す良い機会となったという声が多く寄せられた。パワーランチは各教員の専門分野の話を聞くことを通して、教員間のコミュニケーションを促進する良い機会となっている。

また学生への対応については、春学期の学部・大学院教育 FD「入試広報・学生募集の視点から大学・学部教育を考える」に参加することによって、ターゲットとする受験生や保護者へのアプローチの仕方について考えるヒントを得ることができ、秋学期の「イノベーションセンターにおけるアイデア創出の場づくりと起業・事業化の応援」では、これまでイノベーションセンターの活用方法についてあまり知らなかったため、これから講義・ゼミで積極的に活用したいとの感想が聞かれた。

今年度の重点テーマは「教育活動の魅力向上策・魅力発信策の検討と実践」であり、この点についても各 FD 活動のテーマに沿って問題提起、議論がなされた。ただし、ターゲットとなる高校生の「琴線に触れる事柄」については変化が大きく、引き続き定期的に議論を行うことが必要であるとの認識が共有された。

様々な FD 活動において寄せられた声に共通しているのは、定期的な FD の機会を持つことは重要であるものの、校務・講義などと重なり参加が難しいことがあったということであり、この点は今後解決すべき課題といえる。

3. 次年度に向けての取り組み

経営学部では、高い専門性と、諸領域を横断する知識や能力、視点、あるいは経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を結びつけ、イノベーションを通じて組織の発展・変革と社会の進化を促進する「統合的なマネジメント能力」を持つ人材を養成することを目的としている。

次年度も上記目的に合致する人材を育てるべく、FD 活動を行っていく必要がある。例えば教育活動の魅力向上策や魅力発信策といったテーマは、引き続き重要な問題となると考えられ、FDでの情報交換や議論が必要となる。

各 FD 活動は、ライブ配信、オンデマンド、対面といった開催方法で行われたが、参加タイミングに制限のないオンデマンドが最も参加がしやすいとの声が多く、次いでライブ配信、対面の順であった。FD 活動は、講義やカリキュラムの改善・向上になくてはならないものであり、その効果を高めるためには多くの方々に参加していただく必要がある。開催方法にはそれぞれ長所・短所があるため、その特徴を見極めつつ、多くの参加者が得られるような形を模索しながら FD 活動を行っていきたい。

※この内容は当該年度終了後、本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。